

# あかつき 道徳通信

教授用資料

**巻頭コラム** 「発言できればご機嫌」低学年の道徳授業

横山 利弘（元関西学院大学教授）

**実践レポート** 自分事として考える 低学年の道徳授業づくり

渡部 恭子（大阪教育大学附属池田小学校指導教諭）

No.3

2018年8月30日

巻頭  
コラム

## 「発言できればご機嫌」低学年の道徳授業

元関西学院大学教授 横山 利弘

前号では、全学年に当てはまる楽しい授業の条件について述べました。この号からは、もう少し学年ごとの実態に目を向けて書いてみたいと思います。というのは、楽しいと思うことが子どもの成長と共に変化してくるからです。発言できればご機嫌1、2年、結果より動機を気にする3、4年、背伸びが楽しい5、6年、アポリアを超えて感動中中学生といったように。

以下学年ごとにもう少し詳しく見ていきましょう。

小学校の1年生。入学したばかりの頃は、不ぞろいの子どもたちが、てんでバラバラで、不規則発言をする児童、中には不規則行動に出る児童もいる。手の焼ける子どもたちです。ところが、この不規則発言や行動にこそ、この時期の子どもの特徴を知る手掛かりがあります。余談ながら、年齢に関係なく、つまり1年生だけではなく、子どもの実態は教師が手を焼く言動に現れると心得ておいた方がよいと思います。

たとえば、この時期の子どもは自分の知っていることが出てくると、時も場もわきまえずに「先生、僕知ってる」「この前〇〇で見た」というような発言をします。つまり彼らは自分の直接経験したことを発言したいのです。知っていることやできることを顕示したいのです。真剣に聞いてもらえるかどうかよりも、ウェイトは自分が発言することにあります。やがて学年が上がると、尋ねても答

えなくなる子どもが、この時期は聞いてほしいのです。このことは、「耳を傾けることで子どもと繋がれる」という教育の真髄を教えてくれているといえます。ただ、時と場をわきまえることができないので、教師の都合にお構いなく発言する、よって教師は困るというわけです。

この時期の子どものもう一つの特徴は、現実と空想の間を何の媒介もなしに行き来することにあります。空の雲を見て綿菓子だとイメージすると、次の瞬間にはその雲に乗っている自分を思い浮かべていたりします。雲に乗った自分が意識の現実になっているのです。空想する癖をイメージする力に繋いで子どものイメージ力を育てたいものです。

さてこうした風景も2年生に近づくにつれて変わり、次第に社会化されていきます。しかし、この時期の社会化というものは、大人の都合に合わせることができることを意味しています。また実際問題としては、いつまでも入学したての頃のままでは授業はできません。ただ私たちはこの時期の子どもの心の内には「発言したい」「活躍したい」という思いが強いことを忘れてはなりません。道徳の時間はこういう思いに応えるものであってこそ子どもにとって楽しい時間となるのです。

では3年生になるとどうなるのでしょうか。それは次号で。乞うご期待！

# 実践レポート 「私の道徳授業」



## 自分事として考える 低学年の道徳授業づくり

大阪教育大学附属池田小学校指導教諭  
渡部 恭子

**はじめに** 道徳の教科化がスタートした今年度の春、私は新1年生の子どもたちとあさがおの種をまいた。毎朝せつせと水をやる子もいれば、休んでいる友達のあさがおのことまで心配して水をやってくれる子もいる。その行動の裏には、いろいろな思いが隠されている。休んでいる友達やあさがおに対する思い、なかには「先生にほめてもらいたい」という思いもあるだろう。子どもたちの普段の生活の中で、このような『何かを大切に思う心』は繰り返し現れる。しかし、それらはすぐに消えていき、何かにつながっていくことはほとんどない。

低学年の道徳科の授業では、教材を通じて、そのような『何かを大切に思った心』を想起させることが、『自分事』として考えるための重要なファースト・ステップとなることが多い。そしてそれらと、教材の主人公や友達の意見、道徳的価値とを結びつけ、比較し、さらに掘り下げていくことによって深く考えることにつながっていく。消えかかっていた『何かを大切に思う心』の記憶を呼び覚まし、新たに書き加え、整理していくことを、道徳科の授業を通して行うことで、少しずつ、年輪のように、子どもたちの道徳性が育成されていくのではないだろうか。

この稿では、本校で6月に行った公開授業における取り組みを通して、実践を報告していく。

**教材名** まりちゃんとあさがお

**主題名** いのちのすばらしさ

**ねらい** あさがおの成長とおばあちゃんの言葉から『いのち』について考えを深め、自分が今、生きているということのすばらしさに気づき、生命を大切にしようとする道徳的心情を養う。

**内容項目** 生命の尊さ〔低学年D・(17)〕  
生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

対象学年：小学校1年生

出典：「みんなでかんがえ、はなしあう しょうがくせい  
いのどうとく1」(廣済堂あかつき)

### 教材の内容 (あらすじ)

●まりちゃんは、去年おばあちゃんが育てたあさがおの種をもらってあさがおを育てました。きれいな花が咲いてまりちゃんは大喜び。けれども、ある日学校から帰って来ると、あさがおは小さくしぼんでいました。悲しんでいるまりちゃんに、花はしぼんでしまっても、その後に新しい命が生まれることを、おばあちゃんが教えてくれました。まりちゃんは、「いのちは、つながっていくんだな。」と心の中でつぶやくのでした。

### 授業の構想

#### ■主題設定の理由

1年生は、春に生活科の授業であさがおの種を植えるため、この教材の内容は、児童にとって、とても身近に感じられるものである。特に、あさがおがきれいに咲いて喜ぶ場面や、せっかく咲いたあさがおの花がしおれてしまったことを主人公が悲しむ場面は、理解しやすいと思われる。『いのち』はいつか終わりがくることが、『いのち』が失われることを悲しむ気持ちを大事にしていきたい。

また、おばあちゃんから聞いた『種』の話から『いのち』が繋がっていくということに気づき、ただ悲しむだけではなく、希望をもって『いのち』について考えられるようにしていきたい。加えて、あさがおと同じように、自分や色々な生き物にも『いのち』のつながりがあることに気づき、自分や他の生き物の『いのち』を大切にしようとする道徳的心情を育成していきたい。

#### ■指導にあたって

##### ●『自分事』として考えるとは？

「授業が深まっていないように感じる、なぜだろう？」そんな悩みから始まった。主人公「まりちゃん」のあさがおの花が枯れて、まりちゃんが悲しむ場面は、1年生でも挿絵や文を通して頭では理解できる。でも子どもたちの『心』は、全然悲しくはないのである。当たり前である。なぜなら、花が枯れたのは、自分のあさがおではなく、まりちゃんのあさがおだからである。けれども、自分が大事に育てて、やっと咲いた「自分」のあさがおの花が枯れたとしたらどうだろうか。まだ花が咲いていない子どもも、そのことは実感をもって考えられる。

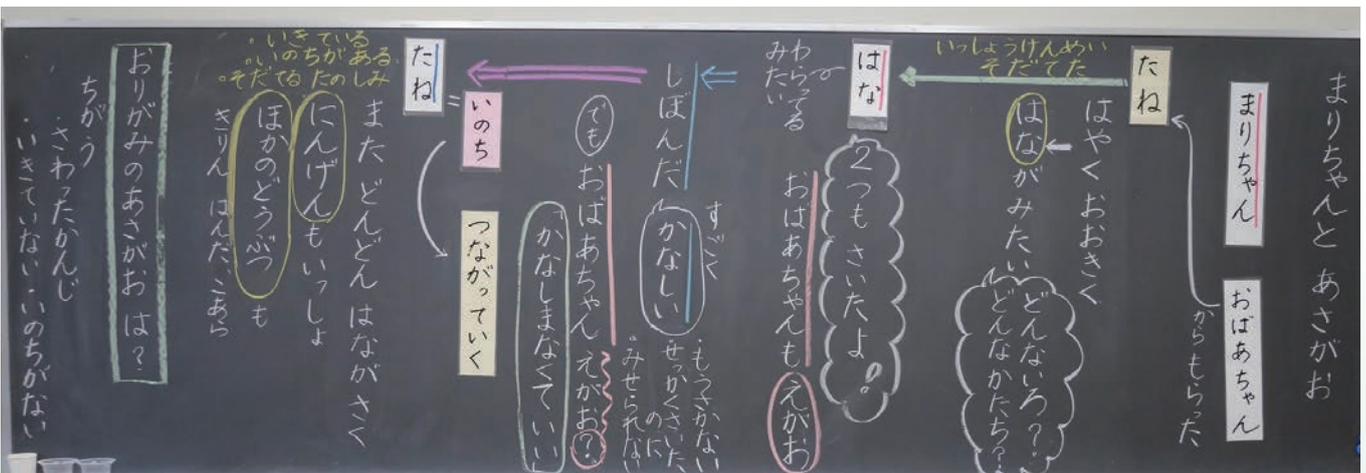
そのことに初めて気づいた時、『自分事』として子どもたちに無理なく考えさせることの難しさにも同時に気づかされた。低学年での道徳の授業では、子供たちの経験や思いと、主人公とをつなげられるような言葉がけや動作化、提示物の工夫が必要である。クラスの実態に合わせて配布方法も考えたい。

##### ●今回行った工夫

- ①動作化…種を植える場面、水をやる場面
- ②実物の準備…植木鉢、水やり、種、折り紙のあさがお
- ③視覚による比較…おばあちゃんの表情、折り紙のあさがお

学習活動	発問と予想される児童の反応	指導の留意点
<p>■本時の題材を知る。</p>	<p>○これは、何でしょう。(あさがおの種の写真を提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かな。見たことがある。</li> <li>・あさがおの種だ。</li> <li>・4月に2年生から種をもらった。</li> </ul>	<p>写真を拡大して見せたのち、教材の概要を伝える。</p>
<p>教材を読む</p> <p>■まりちゃんを通して、自分が種を植えた時のことを思い出す。</p> <p>■まりちゃんを通して、自分の花が咲いた時のことを想像したり、思い出したりする。</p> <p>■初めて咲いた花がしぼんだ時のまりちゃんの悲しさに共感する。</p> <p>■おばあちゃんの言葉の意味を考える。</p> <p>■「いのちはつながっていく」という意味を話し合う。</p>	<p>○まりちゃんは、種を植えた時、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く大きくなあれ。</li> <li>・早く花が見たいな。</li> <li>・どんな花が咲くかな。</li> </ul> <p>○あさがおの花が咲いて、まりちゃんは、どんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やったあ。すごくうれしい。</li> <li>・誰かに言いたい。おうちの人や、友達やみんなに言いたい。</li> </ul> <p>○学校から帰って、あさがおがしぼんでいるのを見て、まりちゃんは、どう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごく悲しい。</li> <li>・みんなに見せたかったのに見せられない。</li> </ul> <p>◎おばあちゃんは、なぜ悲しまなくていいと言っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命はつながっているから。</li> <li>・しぼんでしまったのは悲しいけれど、種ができるから。</li> <li>・花は枯れちゃうけど、それで終わりじゃないから。</li> <li>・枯れたあと、種ができるから。</li> <li>・種を植えたら、また花が咲くから。</li> <li>・種は、あさがおの子どもみたいなものだから。</li> </ul> <p>○「いのちはつながっていく」というのは、どういうことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙のあさがおは生きていない。命がつながっていない。</li> <li>・植物も生きているから、種で命がつながっている。</li> <li>・動物にも命がある。</li> <li>・自分の命も、お母さんの命とつながっている。</li> <li>・生きているものは、みんな命がつながっている。</li> </ul>	<p>教材を範読する。 種まきや、水やりの様子をその場で動作化して、自分が植えた時のことを思い出しやすくする。</p> <p>自分のあさがおが咲いた時にどう思うのかを想像させる。または、初めて咲いた時のことを思い出させる。</p> <p>あさがおがしぼんでしまったら、その花は、もう二度と咲かないということを伝える。</p> <p>教科書の挿絵を見ながら、花が咲いた時としぼんだ時のおばあちゃんとまりちゃん表情を比較し、まりちゃんが何を悲しんでいるのか、おばあちゃんはどのようにして悲しんでいないのかを考えられるようにする。</p> <p>折り紙のあさがおと、種を見せて、比較しながら考えさせる。</p>
<p>■自分を振り返りながら書く。</p>	<p>○今日の授業を通して感じたことや考えたことをノートに書きましょう。</p>	<p>道徳ノートに記入させる。</p>

〈終末〉



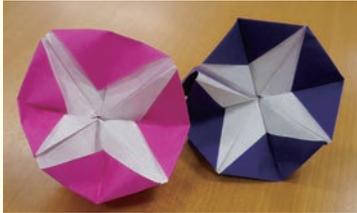
## 実践を振り返って

### ■授業での主なやりとり

(T：教師、Ch：子どもたちのつぶやき)

C1：まりちゃんは、たぶん、おばあちゃんから話を聞いて、命はつながっていくから、心配しなくても、すぐにまた、すてきな花が咲いていくんだなと思ったと思う。

T：ああ、つながっていくんだ。(黒板にカードを提示しながら) 命がつながっていくってどういうことでしょう。(折り紙のあさがおの花と種を配布)



T：あさがお、しぼんだら悲しいんだったら、全部折り紙のあさがおでいいんじゃないの？

Ch：「いや」「いやー！」

T：なんで？

Ch：「これつまんない」

T：なぜ？

C2：本物さわの方がいいよ。

C3：折り紙だったらこれでもいいねんけど、あさがおは、育てていけないといけなから。それでな、それが楽しい人もおるねん。

T：折り紙は、命ありますか。

Ch：「ない」

T：種は？

Ch：「さわった感じも違うよ」「自然のものだから」

T：命がつながっていくってどういうこと？

C4：あさがおは、しぼんでから種が生まれたりするけれど、折り紙はしないし、さわった感じもしない。

T：命がつながるってどういうことですか？

C5：命がつながるってことは、赤ちゃんが生まれて、どんどん…人だったら、いっぱい人が生まれてくるし種だったらどんどんお花が咲く。

T：どんどん咲く。でも1個ずつしぼんじゃうんですね。

C6：まず、これが本物のあさがおとしたら、先に種があって、あさがおがしぼんで中で種がなるとしたら、その種からまた、その次の年に土の中に埋めれば、また咲いて種を、何年か続ければ、命がつながっていくのと同じになる。

T：じゃあ、種が命なの？ 命っていうのは種なんですか？

Ch：「違う」

T：種じゃないの？

Ch：「命っていうのは、ぼくたちにもある」

T：みんなも命がある？

Ch：「あるよ」「だから生きてるんじゃない」

T：みんなの命もつながっているの？

Ch：「つながってるー」

T：誰と？

Ch：「お母さん」

T：お母さんの命は？

Ch：「おばあちゃん」「お母さんのお母さん」

T：おばあちゃんの命は？

Ch：「ひいおばあちゃん」「おばあちゃんのおばあちゃん」

T：ずっとずっとつながっているの？その中の一人でもいなくなったら、あなたたちは今ここには？

Ch：「いない」

### ■児童の振り返りから

- ・あさがおが、いのちがあるなんてしりませんでした。はじめてしてうれしかったです。
- ・あさがおは、わたしたちとっしょで、いのちがある。
- ・あさがおってすごいな。
- ・わたしたちは、おかあさんやおとうさんとつながっています。だからいのちはつながっているんだな。
- ・いのちはたいせつです。なぜかというとしんじゅうからです。

### ■おわりに

あさがおも、毎日水をやり世話をすることで美しい花が咲く。子どもの心の中には、普段の生活の中で、たくさんの思いやり等の道徳性のもとともいえるような『心の種』が蓄えられていると思う。けれど、それらは、水をやり育てていかないと芽も出ないし、すぐに枯れてしまう。一人一人の心の種に水をやるのは教師ではない。その子自身である。『心の種』を育てるために教師ができることは、2つある。1つは、毎週道徳科の授業で、子どもたちが自分の『心の種』に水をやり、育てる機会を与えること。もう1つは、授業の中で、子どもたちのその努力に気づいて、個別に励ますこと、つまり一人一人に評価として返すことである。

1学期に子どもたちの心に芽生えた道徳性という『心の種』が2学期に大きく育つように、今後も努力していきたい。

## あかつき道徳通信 No.3 教授用資料

発行 廣濟堂あかつき株式会社

本資料の内容についてのお問い合わせは、本社編集部 (TEL :03-6435-6690) までお願いします。

この資料は、(社)教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成されており、配布を許可されております。

 廣濟堂あかつき

〒176-0021 東京都練馬区貫井4-1-11  
TEL :03-3577-8966 FAX :03-3577-8967

バックナンバーは、下記HPでご覧いただけます。

<http://www.kosaidoakatsuki.jp>

本資料の無断転載・複製を禁じます。